

コンタクトレンズについて



各務原市
高橋小児科・眼科
高橋 恵里子
(たかはしえりこ)

コンタクトレンズ(以下CLと

略)は、視力の矯正力が高く眼鏡

では矯正しきれない屈折異常も矯

正可能で、眼鏡越しでは大小等、

見え方が違うのに対し、CLでは

変わりません。また、眼鏡では左

右の視力差が大きいと像の大き

さに違いが生じて眼精疲労が起き

ますが、CLでは大丈夫で、視野が

広く顔の印象も変わりません。

CLは目に接触しているため、

前に挙げた利点もおかげなの

ですが、反対にそれが欠点にもつ

ながります。

角膜の細胞に必要な酸素は主に

外気から涙の層を通して運ばれま

すが、CLはこの経路を邪魔し、

角膜に負担がかかるため、眼障害が

時々起こります。装用や取り外し

に慣れも必要で、ケアも不可欠に

なります。結膜炎やドライアイの

ある人、小学生位までの眼球未発

達の子ども、正しく使用できない

人等はCL不応者となります。

次に、CLの種類ですが、ハー

ドレンズとソフトレンズに大別で

きます。

ハードの長所は、レンズが動い

て涙が交換され酸素が供給される

ため角膜への酸素供給量が多く、

硬いため角膜の表面の凹凸を補

正でき乱視の人の矯正に優れてお

り、痛みも感じやすいため障害に

早く気がきます。

それに対し、ソフトは柔らかい

ため装用感がよく、ずれにくいの

でスポーツも可能であり、紛失し

にくい、という長所があります。

ソフトは、最近では使い捨てレン

ズがほぼ主流で、毎日・頻回交換

タイプとありますが、安全性でい

えば毎日交換がいいのですが、費

用がかさむのが欠点です。

次にCLによる目の病気につい

て話します。

CLによる病気で最も多いのが

角膜に擦り傷がつく上皮障害です。

上皮は新しい細胞にさかんに生ま

れ変わっているため、痛くても通

常は数日で治りますが、ソフトの

場合は気付くのが遅れ、細菌等に

感染してしまう事があります。感

染が奥までいき、炎症が眼球内に

及ぶと失明に至る事もあります。

また、酸素不足のために角膜が

むくんだり、角膜に無いはずの血

管が生えてきたりします。

これが長期に及ぶと再生しない

上皮細胞が障害されてしまいます。

あと、CLに汚れが沈着すると、

汚れに対してアレルギー性結膜炎

が起きてしまいます。

これらを軽症のうちに発見し対

処するため、定期検査を受けて下

さい。次に重要なのは、正しいレ

ンズケアです。最近洗浄、すすぎ、

保存が一緒になっているタイプが

主流ですが、充分なこすり洗い、

すすぎが必要です。また、レンズ

ケースも毎回すすぎ洗いし乾燥さ

せ、数か月おきに新しく交換して

ください。ソフトの洗浄や保存に

水道水を使つてはいけませんし、

ケア用品の事も医師に相談して

ください。近年、CLの使用によ

って若年者の角膜の感染症がかなり

増えてきているのが現状です。

しかし、酸素透過性のいい新素

材、乱視用、遠近両用の頻回交換

CLが次々に出てきたりと、CL

が屈折・調節異常で不自由してい

る多くの人の助けになっているこ

とは間違いありません。CLの良

さを生かして快適な生活を続ける

為に、正しい使い方をよく知っ

ておいてください。

